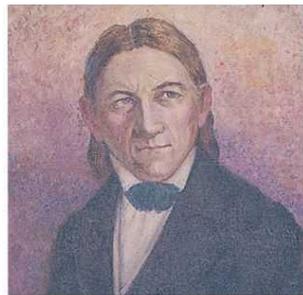


# まなびや

## 幼児教育のはじまり 明治時代のフレーベル恩物(教育遊具)



フリードリヒ・W・フレーベル  
(ドイツ、1782~1852)

フレーベルは、世界最初の幼稚園の開設、そして教育遊具「恩物」の創案など、幼児教育の発展に先駆的な役割を



▼展示室Aにて実物展示

果たしました。こうした偉大な業績によって「幼児教育の父」と呼ばれています。

恩物は、一八三八年に考案され、第一〜第十恩物を通して、子どもたちが楽しく学びながら、創造的な表現活動を展開できるように考案されました。6色の球体で構成される第一恩物から丸い粒で構成される第十恩物まで、それぞれはすべてシンプルな形、素材を使って出来ています。



日本で最初の幼稚園は一八七六(明治9)年東京女子師範学校の附属幼稚園でした。政府は各府県に幼稚園の設置を勧めましたが、小学校の設置や就学が優先され、幼児教育にまでは十分に手が回りませんでした。本県で最初の幼稚園は明治二十年に小浜尋常高等小学校に附属として開設されました。明治二十年代には、師範学校附属・宝永・春山・順化などの各尋常小学校の附属幼稚園が開かれ、明治四十年代には私立幼稚園も創設されました。

上記写真は、大野市旭幼稚園で子どもたちが使用していた恩物(H30秋季企画展)